

## 《 今年度の学校運営の反省と次年度の方針 》 渡邊 岳 校長

- 学校目標に掲げたように「150年の歴史とともに新たなスタート」。150周年記念事業を地域の方々や保護者の皆さんに助けられ、盛大に祝うことができたことを改めて感謝したい。凧揚げをしたこと、ブルーインパルスや遠渡元隊長の講話や地域の方々との祝賀会は、とても有意義であり、地域の方々と一緒に祝うことができ、また、立ち会うことができたことは職員にとってもありがたかった。
- めざす学校像や子ども像で掲げた「ニコニコ・ワクワク・イキイキ」を保護者の皆さんからも150周年事業の「ワクワク凧」などとして使ってもらい意識することができた。
- 今年度の重点的な取り組みとして、「個別最適な学びとグループ・ペア学習による協働的な学びの推進」について簡単にいえば、子ども一人ひとりにあった教育をしようということ、もう一つは子どもたち同士で学び合う授業を創り上げていこうと取り組んできた。

ペア・グループ学習の推進は、子どもたちが課題に向けて学びをすすめ、教師はコーディネートをしていく授業を創ってきた。今年も山形大学の森田先生のご指導を受けながら推進してきた。その結果、子どもたちの学ぶ意欲に向上がみられた。遠渡隊長の講話時にも感じられたこととして、子どもたちが自分の思いや考えを話せるようになった。また、若手教員が型にはめる授業から、子どもの様子を見ながら授業を展開し、授業力の向上がみられたことは大きな成果であった。

- 個の学びに対応してTT学習を推進することができ、教務がTT計画表を毎週つくり、国語と算数は全学年で可能な限りTT授業を行っている。低位の子どもや情緒的に不安定な子どもの指導に大きな効果を感じられた。今後は、上位の子どもたちの学力向上にもつなげていきたい。
- 子どもたちの休み時間をしっかりとった日課表に今年度変えた。モジュールタイムを朝に位置付け、基礎基本の定着を重点に取り組んだ。このことで45分の授業における「学び合いの時間」の確保ができた。また、登校から1時間目までの流れがスムーズになったことが成果としてあげられる。さらには、一週間で1単位時間分の授業時数をカウントすることができ、6時間授業を減らすことができた。このことは、教職員の「働き方改革」にもつながった。
- 学級での集団活動や縦割り活動を通じた絆づくりにおいては、今年度、通年のランチルーム給食を再開した。清掃活動や縦割り読書に加え学年を超えた交流機会が増えたことで「居場所づくり」につながっている。
- 子どもの思いを大切にしたい児童会活動では、1年生を迎える会、押切小フェスティバル、6年生を送る会などで、子どもたちの思いを大切にしたい活動を促すことで、最上級生である6年生の大きな成長を感じた。
- 多様な運動と望ましい生活習慣による健康な体づくりについて、これまでは、「スクリーンタイムを守りましょう」であったことを、生活リズムの見直しを進めるため、学年ごとに就寝時刻を設定し、スクリーンタイムとリンクした取り組みに挑戦した。なかなか厳しい条件であったが今後の様子を見守りたい。
- 器械体操、ダンス、体力向上事業などの講師を招いての運動教室では、子どもはもちろん、教員の指導力向上に大きな成果があった。持久走では17年ぶりに新記録が誕生した。
- 地域の環境や人材を生かした「三川ふるさと学習」では、1年生「通学路探検」2年生「飛び出せ！町のたんけん隊」3年生「三川町のすてき探し」4年生「山大コラボ企画ミズアブの生態を知り、活用法を学ぶ」5年生「三川町の米づくりについて考えよう」6年生「三川町の未来を考えよう」のテーマで行った。山形大学とつながりをもつことができたことは大きな成果だったし今後生きていくようにしたい。今年も多く地域の方から協力をいただきながら教育活動を展開することができた。

○学校評価アンケートの結果からも、「学校に行くのが楽しい」94%、「授業では、少し難しい問題にもあきらめず取り組むことができた」95.7%、「しっかりとあいさつができましたか」97.4%など、様々な項目で成果が出ている。保護者の方のアンケートで、「学校は、学力の定着につながる指導をしていますか」96.6%、「学校は、一人一人を大切にしたい指導をしていますか」96.6%と高い評価をいただきありがたかった。教員の励みにつながっている。課題として、子どもの読書への関心や生活リズムの改善があげられる。

○次年度に向けた経営の構想として、学校目標「いのち輝き かしこく やさしく たくましい 子どもの育成」新しいことに挑戦・みんなで知恵を出し合って・本気で取り組むとしている。めざす子ども像では、ワクワクのところで、「物事を自分事として本気で学ぶ子ども」。ニコニコでは、「互いに認め合い、笑顔きらめく子ども」。イキイキでは、「進んで体をきたえ、元気な子ども」と付け加え変えようとしている。

## 《 今年度の学校運営の反省と次年度の方針についての質問や意見 》 各委員から

・日課表のなかに「クラブ」という時間があるがどんなことをしているのか。

→科学実験、ボール遊びや体を動かすクラブ、ハンドメイドとして創作活動、室内ゲームクラブなどをやっている。昨年は、ダンスや探検といったクラブなどもあった。特別活動として4年～6年の3学年の交流で行っている。

・「百人一首」の取り組みがあった。子どもがそれぞれに関心をもつこと、たとえばプラモデルの作り方で大事なことを百項目などを主体的に調べ、感じ取ったことを発表するような機会があってもいいのではないかと。

・登下校の通学路に住んでいる。子どもたちのあいさつがとてもよい。

・冬期間の通学路には危険がたくさんある。除雪した雪で視界がわるかったり、雪の塊であそんだりもする。注意喚起は必要。

・5年生の稲作に関する学習に関わりその発表を聞いて、5年生が人手不足やPRが不足に気づいたことがよかった。課題を見つけたことは将来きっと解決策を見つけてくれるであろうと期待したい。

・教育委員会の提示した「目指す子ども像三川の子ども（案）」の中で、地域の人と交流して温かさに触れたりする体験を通し、ふるさとを想う子ども、ふるさとを愛することもになってほしいについて、地域によっては子どもとのかかわりを積極的にもつような取り組みをしているところもあるようなので一度確認したい。祭りも人が減少している中で削減傾向にあり以前に比べて子どもの活躍する機会が減っている。子どもたちにとって楽しい思いは大切。

・ネットゲームのつながりは拡大しつつある。危険な状況は増えている。学校だけでなく家庭での注意と対応は必要。

・新しいこと、行事などへの不安、友だちとのかかわりなどから休みがちな子どもは増えている。以前のように力強く連れていくことはなくなった。

・町への要望事項でスクールバスや危険な通学路の問題などを毎年要望している。町の回答は同じ内容を継続して出すことはやめてほしいということだった。しかし、解決していないから要望を出すのであってその対応は疑問に思う。

